

Made in Japan を世界へ

ライター：濱田真優・鈴木丈治 エディター：佐藤祐菜

都内の本屋に置かれている日本製のノートを購入していく光景がよくみられる。お土産としてノートを選び、購入していくのだそうだ。その理由は日本製のノートの質の高さだ。職人さんが受け継いできた技術と書き心地へのこだわりがその質を支えてきた。Made in Japan のノートの魅力に迫る。

まず、大事なことは「伝統の継承」と東京下町にあるツバメノート二代目専務の渡邊精二さんは語る。ツバメノートは1947年の創業以来GOOD DESIGN賞も受賞しているノートのデザインも、製法も全く変えていない。目に優しい、蛍光染料が一切入っていない紙を使い、罫線は紙に凹凸が出来ないように水性インクで印刷している。書き心地を追求しているのだ。また糸綴じの製法を貫いている。1冊1冊丹精込めて職人さんがミシンをかけてノートを開いているのである。紙の中央を縫い二つに折ってノートを製作する。同じく糸綴じを用いることにこだわってノートを製作しているライフの角張修さん・江川富男さんは次のように語る。「一週間に3人の職人の手で2000冊しか製造出来ないため決して効率的とは言えないが、職人技を活かすことにこだわっている」。糸綴じの良さはほつれないという点であるがコストがかかるため現在この製法を使用しているメーカーは多くない。その中でもこのように長年に受け継がれてきた、書き心地に対する強いこだわりがMade in Japan のノートの質を支えているのである。

伝統にこだわるだけではない。更なる飛躍を求めて、新しいことにも挑戦している。ツバメノートの渡邊精二さんは2008年に、新しいクリームノートシリーズを開発した。世界でも通用する質の高さを目指したノートである。紙は目に負担のかからないクリーム色で、ノートの種類も使い分けができるよう罫線、方眼、無地の3種類用意がある。値段は一冊324円から。また、表紙のデザインはパルテノン神殿に見られるエンタシスの柱をモチーフにし、納得いくまで1年以上試行錯誤を繰り返したという。「自分が心から惚れ込んで、誇りを持っている商品だから自信をもっておすすめできる」。専務の言葉が全てを語っている←削除ライフも同じく2008年に新商品としてノーブルノートを開発した。30年以上前からノートを作っているが、世界にも展開していくことを視野に入れた新しいシリーズを生み出したのである。書き心地にこだわった逸品で、値段は600円からと少し高めだが、普通のノートよりも厚いことも考えれば長く使えるだろう。

Made in Japan のノートは既に海外に渡っている。ツバメノートもライフもオンラインで海外にもノートを販売している。ライフ社のノートは、文房具店だけでなくアパレル店や雑貨屋にも商品を置いて人気が出ているという。範囲はアジアだけでなくヨーロッパにも広がっている。ノーブルノートはルーブル美術館内の文房具店でも取り扱われている。

日本のノートはデザイン性においても質においても優れているものが多い。Made in Japan のノートを手に取り、その質の高さ、製作者のこだわりをぜひ感じ取って欲しい。

編集後記

この記事を通して、ものづくりに対する職人の方々の情熱を感じました。使い手のことを第一に考え、良いものを作り上げようとする姿勢に大変感銘を受けました。特にノートという身近な文房具が職人さんによる丹精込めた作業を経て出来上がる過程は大変素晴らしいと思います。メイドインジャパンのノートの良さが広く知られるようになることを願います。

濱田真優

私自身の海外経験から、日本の文具品の中でも特にノートは人気があり、そんな日本のノートをとりあげたく、この記事を書くことになりました。ノートは日頃使っている身近なものですが、そんなノートの中にある考案者や職人さんの工夫や思い、苦労などを今回の取材で知ることができました。

鈴木丈治